

関西学院千里国際中等部
2024年度 入学試験問題

国語

- ・ この冊子と解答用紙に受験番号を書きなさい。
- ・ 字数制限のある場合は、「、」「。」「」もふくみます。

受験番号	
------	--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今もサバンナで生活していると、動物と人間が共生していた頃の動物のシウセイを目の当たりにすることがあります。

①その一例として、サバンナに生息する「ノドグロミツオシエ」という小鳥をご紹介します。

名前が示す通りミツ(蜂の巣)の場所を教えてください。英語名も「Honeyguide(ハニーガイド)」
蜂蜜の案内人といえます。蜂蜜は人間にとって、もともとも古い食料の一つであると言われており、過酷な自然界の中では、貴重なエネルギー源となっていました。②ノドグロミツオシエは、数千年以上にわたり人間と協力しながら蜂の巣をゲットしてきました。

ノドグロミツオシエの主食は主に蜂の巣を、コウセイしている蜜蝋や蜂の幼虫です。③この鳥は蜂の巣を見つけてるのは得意でも、巣を開けるのは得意ではありません。④人間を見つけると鳴いて気を引き、その人間を蜂の巣まで案内します。数十メートルごとに鳴きながら飛び進み、進むのが遅いと、わざわざこちらまで戻ってきて誘導してくれます。蜂の巣まで到着すると今度は静かになり、人間が蜂の巣を取り出すのを待ちます。人間は蜂の巣を見つけてるのは得意ではないですが、道具を使ったり、煙を使って蜂の攻撃を抑えたり、効果的に蜂の巣を採取することができます。⑤蜂の巣にありつけた人間は、⑥ノドグロミツオシエにもちゃんと取り分を残しておくのです。

④ノドグロミツオシエに蜂の巣を残さないと、次回はライオンや毒ヘビまで誘導されるなんていう恐ろしい迷信まであります。タンザニアでは7万7000年前の岩絵に、ノドグロミツオシエの姿が描かれています。動物と人間の共同作業、自然界の共生関係がそんな昔からあったのです。

しかし、現代では蜂蜜はお店で買うものとなり、昔のように蜜を採取する人間はほとんどいなくなりました。これにより鳥もその本能を忘れてきていると言われてます。なので、ツアー中に彼らのことを説明する時には「かつては名前の通り「Honey Guide」の役割を、⑦こなしていました。⑧」という前置きをするのが常でした。

そんな中、最近近くの「ホゴ区」でノドグロミツオシエがウォーキングサファリをしていたサファリガイドを蜂の巣まで誘導したことがあったのです！忘れられたと思われていた人間との共生本能がまだ野生動物に残っていたことに感動すると同時に、私たち人間は木から蜂の巣を取り出すスキルを失ってしまっていることにも気づかされました。自然との共生の仕方を忘れてしまったのは、⑨だけだったのです。

長い時間をかけて、キズかれてきた人間とノドグロミツオシエとの貴重な共生関係は、私たちの世代で終わってしまうのでしょうか？もともと自然の一部であったはずの自分たちを、いつからか自然を独占・管理する「特別な存在だ」と勘違いし始め、私たち人間は大切なものを見失ってしまっているのかもしれない。様々な生き物が、⑩の絶妙なバランスで生きている、⑪そんな美しい自然の輪の一部にもう一度人間も戻れたらいいなと思わせてくれる出来事でした。

(太田ゆか『私の職場はサバンナです！』)

問一—— a f のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二—— ①「その一例」とありますが、何の例ですか。本文中の言葉を使って十字程度で答えなさい。

問三—— ②「ノドグロミツオシエは、数千年以上にわたり人間と協力しながら蜂の巣をゲットしてきました。」とありますが、それぞれの役割を二十字程度で説明しなさい。

問四—— ③に入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア こうして イ しかし ウ さて エ そこで

問五—— ④「ノドグロミツオシエにもちゃんと取り分を残しておくのです」とありますが、「取り分」とは何ですか、本文中から二種類ぬき出しなさい。

問六—— ⑤「ノドグロミツオシエに蜂の巣を残さないと、次回はライオンや毒ヘビまで誘導されるなんていう恐ろしい迷信まであります」とありますが、この迷信が生まれたのはなぜだと考えられますか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア サバンナには恐ろしいライオンや毒ヘビがいることを忘れないようにするため。
イ ノドグロミツオシエはライオンや毒ヘビの所にも案内できることを伝えるため。
ウ せっかくな見つけた蜂の巣をノドグロミツオシエに独りじめされないようにするため。
エ ノドグロミツオシエがいるからこそ蜂の巣が手に入るということを忘れないため。

問七—— ⑥「前置きをするのが常でした」とありますが、それはなぜですか。わかりやすく説明しなさい。

問八—— A に入る最も適当な語を、本文中から漢字二字でぬき出しなさい。

問九—— B に入る慣用句として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 行きつ戻りつ イ 持ちつ持たれつ ウ 抜きつ抜かれつ エ 見えつ隠れつ

問十—— ⑦「そんな美しい自然の輪の一部にもう一度人間も戻れたらいいな」とありますが、戻らなければならないことはどんなことだと作者は考えていますか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学五年生の美話みわが落としたメモ帳を、コビーライターのソラモリさんが拾った。それをきっかけにソラモリさんは、美話に言葉のレッスンをしてくれるようになる。夏休みが終わるころ、美話が自分の書いた宿題の童話どうりやうを、ソラモリさんに見せるかどうかをなやんでいたところへ、ソラモリさんから連絡れんらくがあった。

呼ばれたからという言いわけに助けられ、家をたずねた。

ソラモリさんは、かたくなった美話の前で、ピンクのメモ帳に目を通してからホワイトボードに美話の童謡をうつしていく。

風だよ 海から

（こごごごー）

船を出せよと 呼んでくる

風だよ 森から

さわさわり

夢はなにかと 聞いてくる

風だよ 町にも

ひう びゅう

ひとりきりかと 見にきたの

「こうして、ひとの字で見ると、じぶんが考えたものじゃないみたいでしょ」

「うん」

美話の字も、ソラモリさんの字も丸っこい。同じ丸っこさでも、ボードのものは大人の字だった。

まるで十年後のじぶんが、タイムスリップして書いたみたいに。

「どうよ」

①聞きたいのはこちらなのに、問われてしまった。

「ソラモリさんは？」

「質問に質問で返すか。さては弱気になっている」

「やっぱり隠かくしておけない。」

「悪くないかなって……」

「うん、いいと思うよ」

「六年生のときのソラモリさんなら」

「これは書けなかったかな」

「キャッチコピーのとき、そういつてもらえたのはうれしかったのに……今回は、はずめない。」

「何か足りないなあと思っていました」

「なんだろうねえ」

ソラモリさんが台所に入っていく。軽い口調、軽い足どりで。

②あれは、もう答えがわかっている——すぐには教えてくれないつもりだ。

これが最後の言葉のレッスンのかもしれなかった。

最初に会ったときから、少しずつ、美話にはわからないほど少しずつさされてきた《言葉レッスン》。

「台風の日を書いたんです」

「小さくいったのに、台所のソラモリさんはとらえてくれた。」

「風、b アバれまくったからね」

「はい」

「タイトルは？」

「——『風だよ』かな。って」

「うん、それしかないと思う」

ソラモリさんは、ところでさ、と——。

「エビフライ好き？」

「……はあ、好きですけど」

③どうして、ここでエビフライ？

ソラモリさんは美話に背中を向け、コーヒーをいれながら、なおも聞いてくる。

「シッポ食べる？」

「食べません、けど」

「切っちゃっていいよね」

「はあ」

「食べないなら、最初からシッポを切って皿にのせればいい」

「え、それだと」

「シッポのないエビフライは、大きめソーセージのフライみたいだ。そんなのはエビフライじゃないと思う。」

「だいたい、おいしそうじゃないです。シッポは大切です」

「だよ」

マグカップを両手に、ソラモリさんが戻ってきた。

ソラモリさんはブラックで、美話のカップにはミルクとc サトウが入れている。

漆黒とミルク色は、大人と子ども。わかりやすい対比だった。

ソラモリさんと美話のあいだの、A のようでもある。

④どうして、わたしにかまってくれたんですか

「ん？」

「メモ帳をひろったときから。わたしを引きとめて、いろいろしてくれたり」

「——空よ、青いのは

海のカガミ

夜よ、暗いのは

「それ……」

「これはそこで終わっていて、次のやつが、

——波がよせるよ

波のページ

何枚も何枚も」

「やっぱり見たんじやないですか」

童謡を書くために買ったピンクのメモ帳。ソラモリさんは、とぼけて認めなかったけど……ほらねと思いつつ、

いまは恥ずかしさも怒りもなかった。

「書きかけにしたのが十二作」

「そんなにありましたか」

「言葉が外に出たがっている、磨みがかれたがっている、と思ったな」

「はあ」

「ほっておけないじゃないか」

ソラモリさんがまた台所に行き、今度は、頭をきゅつとd ムスんだ麻あせの小袋こいぶくろを持ってきた。

「だって、言葉を輝かがかせようとしているひとは同志だもん。ほら」

麻の小袋の口をひらいて、美話の鼻先にもつてきた。

「いいにおい」

「コーヒー豆がひかれて粉になっている。コーヒーというe エキタイエキタイになってしまったものより、においが強い。」

「風だよ 海から(ごごご)」

コーヒーのにおいのなか、ソラモリさんがボードの歌詞を読みあげた。次にマグカップを指先で、ちん、ちんとはじき、澄んだ音にのせ、

「風だよ 森からさわさわり」

と、二番の歌詞も声にした。

「ね、みーたん」

ピンクのメモ帳をうちわにして、美話の前髪をそよがせる。

「風だよ 町にも ひう びゅう」

「はあ」

「⑤以上だよ」

ソラモリさんが、それはもう楽しそうに、にんまりした。

意味不明すぎる。わかるのは、そばに、美話の言葉とか感覚とかを信用するソラモリさんがいてくれること。

そして——⑥ 答えは、もうもらったのではないかということ。

美話はボードに向きなおり、歌詞を読んだ。

ひとの字で書かれた歌詞は、初めて見るようであり、何度も見てきたものようでもあった。

足りないものがある。

⑦これは……シッポのないエビフライだ。

シッポは……なにか……にわかには髪の毛の根が①する。ひらめきの f ネット。次の瞬間だった。

「あっ——」

美話の背に稲妻が走りぬけた。②、鳥肌。立ちあがり、マーカーをつかんだ。

⑧足りなかったのは、えっと……《それ》を、なんといったらいいのかわからない。

んなことは、あとだ。

美話は一番の歌詞の後ろに《におい》を足した。

二番の後ろには《音》。

どちらもソラモリさんが、コーヒーの粉とマグカップをはじいて教えてくれた。

そして三番。メモ帳であおいでくれた——。

童謡の詞が完成した。

風だよ 海から

船を出せよと 呼んでくる

しおのにおいだよ

風だよ 森から

さわさわり

夢はなにかと 聞いてくる

葉ずれの音だよ

風だよ 町にも

ひう びゅう

ひとりきりかと 見に来たの

髪 B

③と、ソラモリさんが拍手をしてくれた。

④「よくやったよね」

「足りなかったのは……」

「実感とか体感。みーたんが、じぶんの体で感じるもの」

鼻、耳、そして肌で。

「初めは、風をスケッチした文字でしかなかった。だけど、おしりに一行を足したことで、歌の主人公が、風のおいをかぎ、音を聞き、髪を揺らして、紙から立ちあがってきた」

「あの、そこまでいわれると、⑤むずかしいです」

「書けたじゃん」

「はい」

(はんだ浩恵『ソラモリさんとわたし』 作問の都合上、一部改変)

問一——a f のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二——①「聞きたいのはこちらなのに、問われてしまった」とありますが、何を聞きたかったのでしょうか、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の作った童謡がうまくできているかどうか。

イ うまく十年後の自分のように書いているかどうか。

ウ ホワイトボードに書くとき童謡がうまく見えるかどうか。

エ ソラモリさんが書くときどうして大人っぽく見えるのか。

問三——②「あれは、もう答えがわかっている」と美話が思ったのはなぜですか、説明しなさい。

問四——③「どうして、ここでエビフライ？」とありますが、美話がそう思ったのはなぜですか、わかりやすく説明しなさい。

問五——A に入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 間違えようのない事実

イ わかりあえない関係

ウ うめられない差

エ はっきりした好みの違い

問六——④「どうして、わたしにかまってくれたんですか」とありますが、その答えとして最も適当な部分を解答用紙に合う形で本文中から二十字以内でぬき出しなさい。

問七——⑤「」以上だよ。『ソラモリさんが、それはもう楽しそうに、にんまりした』とありますが、この状況の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 意味がわからないことをたくさん聞かせて、美話が混乱するのを楽しんでいる状況。

イ コーヒーを飲み終わったので、次は二人で会話を楽しむ時間だと心待ちにしている状況。

ウ コーヒーを飲みながらの休けい時間が終わり、言葉のレッスンを始めようとしている状況。

エ 言葉のレッススが終わり、後は美話が必死に答えにたどり着くだけだと思っている状況。

問八——⑥「答えは、もうもらったのではないか」とありますが、ソラモリさんがくれた「答え」につなが

るものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア キッチンから美話に返事をした。

イ コーヒーを二人分入れた。

ウ コーヒーにミルクとさとうを入れた。

エ 美話にコーヒーの粉の香りをかがせた。

オ ピンクのメモ帳の中を見た。

カ ピンクのメモ帳で美話をあおいだ。

キ マグカップを美話に差し出した。

ク マグカップをはじいて音を鳴らした。

問九 ——— ⑦「これは……シッポのないエビフライだ」とありますが、「シッポのないエビフライ」とはどのようなものですか。本文中の言葉を使って二十五字以内で説明しなさい。

問十 ——— ⑧「足りなかったのは、えっと……《それ》とありますが、それは何ですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問十一 B に入る歌詞を、童謡の一部としてふさわしいように自分で考えて書きなさい。

問十二 ① ⑤ に入る言葉として最も適当なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。
同じ記号を二度使うことはできません。

ア ちよつと イ ぞわつと ウ ちりちり エ ぱちぱち オ そわそわ カ ずつと

